

YWVOB 会 会報 No.85

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部 OB 会

2023年12月2日発行 <https://ywvob-hp.jpn.org>



～ 85号の目次 ～

・YWVOB 会長ご挨拶	1
・2024 年度 OB 総会報告	2
・2023 年度決算、2024 年度予算、監査報告、 役員一覧	5
・OB 会員近況報告	8
・現役 T シャツ販売	10
・2023 年第 4 回役員会報告	11
・2023 年度 OB 山行予定	13
・第 68 回 OB 山行報告（金峰山、国師ヶ岳、 北奥千丈岳）	14
・第 69 回 OB 山行案内（浅間嶺）	15
・苗名小屋便り	16
・自由投稿①「北海道・東北花紀行」	18
・自由投稿②「ワンゲル 5 期の会開催」	18
・自由投稿③「2023 年 8 月 苗名小屋」	18
・自由投稿④「百名山思い出ベストテン」	21
・自由投稿⑤「陣ヶ下渓谷歩き」	23
・自由投稿⑥「日本一低い中央分水界を訪ねる」	24
・自由投稿⑦「秋田 皆瀬川水系虎毛沢 遊行記」	27
・観天望記（編集委員会から）	29
・現役部員の活動紹介	30
・退会	31

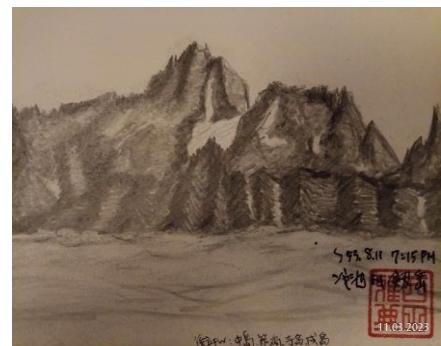
■ YWVOB 会長ご挨拶

会長 西田雅典（20期）

いつも OB 会活動へのご理解、ご協力ありがとうございます。
猛暑、残暑から一気にダウンを取り出す、妙な気候ですが、早
や今年も終わりつつあります。世界はキナ臭く、減税・給付議
論、24 年労働時間問題などが巷を賑わしていますが、来年は辰
年。泣く子も黙る ChatGPT に問えば「陽の力が強まるが、変化を
受け入れ適応能力を高める年ともなる」という意味深長だが優等
生的な即答。世の中のことや我が身のことをハタと考えさせられ
ました。

今年 9 月、横国 DAY と防災こくたい（関東大震災 100 年）同時
開催の中で、4 年ぶりに常盤台での OB 総会およびワンゲル展示会
が賑々しく行われました。大学主催の交流会も復活し、締めで恒
例によりワンゲルが「ミハルカス」の指揮を執りました。来年も愉快な集いを常盤台で開催できればと思
います。

2024 年度 OB 会活動は 10 月から、OB 山行、山小屋活動、会報発行、新 HP 活用、メルマガ発行、部
史編纂、総務それぞれで活動の進化を遂げながら展開されています。OB 会活動についても忌憚ないご意
見を、HP やメールなどでも結構ですので、お願い申し上げます。OB 会役員会は常にオープンですので
隙間時間だけでもお手伝い頂ける方は、ぜひお気軽にご連絡をお願いします。



（拙作 1978/8 冷池より剣岳）

現役は50人ほどの大所帯になっています。これから新しい幹部（以前は執行部）のリードで活動が展開しますが、来年4月の1年生はナント68期となります。また、4月に5人以上の新OBが正式入会予定です。是非、現役へのご支援、ご助言なども頂戴出来たら幸甚です。また、現役デザインのTシャツ販売ではご協力ありがとうございました。

少し早いですが、来年も皆様とご家族にとって健やかで実り多い1年となりますよう、お祈り申し上げます。

■ 2024年度OB総会報告

総務委員長 竹村昇（13期）

1) 日時：2023年9月17日（日）11:00～12:00

2) 場所：横浜国大理工学部講義棟A110会議室及びZoomのハイブリッド

3) 出席者：36名（下線はZoom出席）

・OB会員：32名…吉野・塚原（2期）、時田（5期）、小木曾（7期）、早坂・平沼（8期）、鈴木（9期）、安藤（11期）、山川（12期）、竹村（13期）、吉田（14期）、小浜・白須（17期）、植草・堀内・向井・山口（18期）、磯尾（19期）、西田・石垣・武藤（20期）、村松・白木（21期）、成島・山本（22期）、伊藤（23期）、柏木（25期）、毛塚（26期）、松本（29期）、小野・親跡（34期）、石川（41期）

・オブザーバー：現役4名、西川・細川・落合（64期）、林（65期）

4) 総会の成立

・OB会全ての期の数：62（1～63期、うち45期欠番）、出席の期の数：21、欠席して委任状を提出した期の数：17、合計38のため定足数（21）を満たし、総会は成立した。

5) 議事

・竹村委員長の開会宣言の後、白木幹事長（21期）を議長に指名した。議長が柏木総務委員（25期）を書記に指名して、議事を進めた。

◇会長挨拶（会長 西田雅典（20期））

今回は、横浜国大で開催された「ぼうさいこくたい」と横国Dayに合わせて、リアルで企画展とともに総会を開催できた。現役部員にも手伝って頂いた。

◇報告事項

1. 2023年度報告（2022/10/1～2023/9/30）活動実績（会長 西田雅典（20期））

・総会参加者数、OB会員数、期別部員数の推移

・活動実績全般：2022/10/22 総会（完全オンライン 31名参加）、山行はコロナが落ち着く中で再開（65～67回）、小屋も活動活発化、現役の参加増加（ノウハウ伝授）、保守、会報・メルマガは予定通り発行、新ホームページ（WordPress）で情報の一元化進展、共有化、部史編纂は現役データの収集などを継続推進、現役との部室等でのコミュニケーションの継続、OB会員からの寄付促進（OB会寄付+個人寄付）、大学企画部門・河端YWV部長とのコミュニケーション（現役主将と）

・総務委員会：23年度末現在会員数492名、23年度：新会員4名、退会2名（逝去者1名を含む）、メルマガ発行：毎月発行、各委員長による原稿アップロード、現役への支援（4年ぶりに夏合宿激励会実施、スキーセット3台、OB個人からテント・ザック・ツエルト・軽アイゼンの寄付、寄付金付き価格にて現役作製オリジナルTシャツのOBへの販売）、新ホームページ（Word Press）への会則・諸議事録の掲載、名簿システムの維持管理（タイムリーな更新）

・OB山行委員会：コロナ禍で安全対応のうえ山行再開。65回大山（10/15）：26名参加、66回高水三山（1/21）：29名参加、67回石老山（5/20）：27名参加

・OB小屋委員会：キノコ狩り、小屋閉め、年越し小屋入り、雪下し、小屋開け、山菜採り、小屋整備などを実施

・編集委員会：82号（12/10発行）、83号（4/8発行）、84号（8/20発行）の合計3回会報を発行

- ・ホームページ委員会：WordPress 新規導入、内容は3区分で一般公開用（OB会活動など）、会員用（OB山行、小屋利用状況など）、役員用（各委員会の資料共有、議事録など）、公式LINEアカウントの開設（メルマガ等のLINEでの送付利用）
 - ・部史編纂委員会：歴史館充実（既掲載情報の内容チェックなど）、OB会内での利用方法の周知、現役とのコミュニケーション促進（現役担当とのコンタクト）、SSL化によるセキュリティ強化
 - ・役員会：1/7、4/22、7/1、9/3の合計4回を開催。1/7のみオンライン、他はハイブリッド
2. 2023年度決算実績（会計幹事 松本和之（29期））
- ・年度末を迎えていないので、現時点の数値である。決算数値は会報、会員HPにて報告する。
3. 監査役報告（監査役 白須謙治（17期））
- ・年度末を迎えて決算報告が出た時点で監査する。監査結果は会報、会員HPで報告する。
4. YWVOB会規程（副会長 石垣秀敏（20期））
- ・規程改正は役員会で決定され、総会で報告することになっている。現在11の規程があり、内容や様式を整理し、ホームページに掲載している。
5. 会員入退会現況報告（総務委員長 竹村 昇（13期））
- ・2022年：柳澤章博（22期）12/7本人から退会希望、高山明彦（23期）11/23逝去・2023年4月入会：63期中山竜熙（期別幹事）、水内裕太、金 天瞳、島 生成
 - ・2024年4月入会予定：64期西川雄貴、細川新太、前田頼人

◇決議事項

第一号議案

2024年度活動計画案及び予算案承認の件（会長 西田雅典（20期）、会計幹事 松本和之（29期））

- ・全般：山行（安全確保、多様化）、山小屋（楽しみ方、保守・運営、現役ニーズ）、名簿管理のあり方（セキュリティ他）、ホームページのさらなる活用と会員への情宣活動、サーバ管理（運営ルール、サーバ統合など）、現役支援（寄付、助言、就活）、期別幹事コミュニケーション深化、新役員募集、OB会業務の簡素化、マニュアル化、OB会予算、特別準備金活用の議論
- ・総務委員会：将来に向けた作業簡略化、作業の見える化推進、ホームページを利用した文書管理システムの推進、現役支援・関係深化継続、マニュアルの整備、名簿システムの再整備、パスワードなどの再構築
- ・OB山行委員会：69回1/27浅間嶺、70回5/18表妙義中間道、71回10/19甘利山・千頭星山
- ・OB小屋委員会：定例小屋行事（キノコ採り、小屋閉め、雪下し、小屋開け、山菜採り、小屋整備）、小屋整備・保守（今後的小屋活用（保守修繕、費用補助）、リスク対策（若手・現役とのコミュニケーション）、岡田さん、現地とのコミュニケーション深化
- ・編集委員会：85号～87号発行。テーマは会報が本会と会員の架け橋に！
- ・ホームページ委員会：利用促進、（一般公開用：OB会活動、ホームページ更新内容の周知、会員用：OB山行、小屋利用状況の共有など、役員用：各委員会資料共有、議事録など）、ywvob.orgドメインの新設、公式LINEアカウント利用促進など
- ・部史編纂委員会：歴史館充実（既掲載情報の内容チェックなど）、OB会内での利用方法の周知推進、現役とのコミュニケーション推進、部室の書類の整理、Cサーバ統合対応
- ・役員会：開催予定日①1/7、②4/20、③7/13、④9/21、ハイブリッド会議を継続、討議内容の事前共有化による時短化、期別幹事との連携体制整備、若手役員活躍の場を拡大するための仕組み作り、現役活動支援に対する応援体制作り、役員会後の懇親会も含めたコミュニケーション深化、標準化・システム化による業務の簡素化など
- ・予算案は、別添のとおり。但し、年度繰越金額が未定であり、予算内訳を提示した。2023年度決算が決定した時点で、数値を変更し、会報、会員HPで報告する。活動計画案、予算案について満場一致で承認された。

第二号議案

役員選任の件（議長 白木政隆（21期））

- ・退任、新任、再任する役員について説明があった。（次ページ「役員一覧」参照）
- ・次期役員案について満場一致で承認された。

◇現役活動報告

- ・全 10 ほどのグループで北アルプスをメインにして活動している。それぞれの山行で 10 名程度の参加者がある。

◇閉会（総務委員長 竹村 昇（13期））

【役員一覧 2023/9/17総会決議内容】

赤色は再任(決議)/青色は新任(決議)/緑色は新担当(報告) ※兼務の任期満了は本務任期に合わせる

役職名	氏名	期	任期満了年	役職名	氏名	期	任期満了年
会長	西田 雅典	20	'26	OB小屋委員	安藤 貞利	11	'25
副会長	石垣 秀敏	20	'26		小口 雄平	14	'26
幹事長	白木 政隆	21	'26		向井 良作	18	'26
副幹事長	石川 真	41	'26		石井 重雄	19	'24
会計幹事 (兼)	吉野 大次郎	2	'24		笹倉 実	30	'26
	松本 和之	29	'24		安本 健一	30	'26
顧問	嘉納 秀明	1	'24		田中 義人	34	'24
	吉野 大次郎	2	'24		親跡 冬樹	34	'25
	吉村 元孝	3	'26		村山 浩樹	34	'26
	鈴木 弥栄男	9	'24		田村 顯洋	34	'26
	山川 隆	12	'26		石川 真	41	'26
総務委員長	竹村 昇	13	'25		谷口 貴大	54	'25
総務委員 (兼)	山川 隆	12	'26		水内 裕太	63	'26
(兼)	西田 雅典	20	'26	編集委員長	石垣 秀敏	20	'26
(兼)	武藤 功二	20	'25	編集委員	武藤 功二	20	'25
(兼)	白木 政隆	21	'26		楠本 なぎさ	28	'25
(兼)	成島 和仁	22	'25	ホームページ委員長	武藤 功二	20	'25
	吉田 豊	23	'26	ホームページ副委員長	吉田 豊	23	'26
	早川 恭二	24	'26	ホームページ委員	(兼) 嘉納 秀明	1	'24
	柏木 修一	25	'26		(兼) 竹村 昇	13	'24
	渡邊 隆史	36	'26		(兼) 石垣 秀敏	20	'26
OB山行委員長	山口 貢三	18	'26		(兼) 親跡 冬樹	34	'25
OB山行副委員長	磯尾 典男	19	'24	部史編纂委員長	堀内 章子	18	'25
OB山行委員	小野 恵美子	34	'26	部史編纂委員	(兼) 嘉納 秀明	1	'24
	小浜 一好	17	'24		(兼) 菅谷 光雄	6	'26
	親跡 冬樹	34	'25		村松 清一	13	'26
OB小屋委員長	榎本 吉夫	12	'25		山下 晓	17	'24
OB小屋副委員長	後藤 誠史	39	'26		安武 和俊	20	'25
OB小屋委員会計担当 (兼)	松本 和之	29	'24		楠本 なぎさ	28	'25
OB小屋委員	諸角 壮式	5	'26		塙野 貴之	46	'26
	菅谷 光雄	6	'26	監査役	白須 謙治	17	'25

総員数（除兼務）

44名

◇記念撮影



2023年度決算報告

2023年度一般会計収支計算書

(2022. 10. 1～2023. 9. 30)

(予算)		(実績)	
前期繰越金	1,789,838	1,789,838	
(繰越前納会費	1,196,666	1,196,666)
(収入)			
費目	予算	実績	差額
年会費	100,000	74,000	-26,000
前納会費収入	376,667	365,000	-11,667
一般寄付金	40,000	32,000	-8,000
小屋寄付金	60,000	72,000	12,000
山行参加費	30,000	39,800	9,800
その他収入	0	20	20
計	606,667	582,820	-23,847
(前納会費入金	370,000	340,000)
(延人員	222名	219名)
(当年度納入	38名	34名)
(支出)			
費目	予算	実績	差額
会報作成・発行費	220,000	265,828	45,828
小屋会計振替	150,000	150,000	0
役員会費用	40,000	16,554	-23,446
総務委員会費用	50,000	24,670	-25,330
山行費用	30,000	19,690	-10,310
HP委員会費用	30,000	15,583	-14,417
部史編纂委員会費用	40,000	15,714	-24,286
その他(予備費)	180,000	103,450	-76,550
計	740,000	611,489	-128,511
当期収支	-133,333	-28,669	104,664
次期繰越金	1,656,505	1,761,169	104,664
(繰越前納会費	1,189,999	1,171,666)

2023年度OB小屋会計収支計算書

(2022. 10. 1～2023. 9. 30)

前期繰越金	118,564	
(収入)		
OB会計より振替・小屋寄付金	150,000	
小屋宿泊料金	59,400	
預金口座利子	3	
OB小屋会計収入合計	209,403	
支 出		
小屋地代	10,000	
交通費補助	60,000	
現役活動費補助	20,744	
小屋整備・備品・燃料・消耗品等	120,295	
振込手数料	165	
OB小屋会計支出合計	211,204	
当期収支	-1,801	
次期繰越金		
預金	116,763	

2023年度特別準備金収支計算書

前期繰越金	4,625,042	(2022. 10. 1～2023. 9. 30)
収 入		支 出
預金利子	5	
計	5	計
		0
		次期繰越金
		4,625,047

2023年度 主な支出

(2022. 10. 1～2023. 9. 30)

会計	費 项	内 容	金額
一般会計	現役活動補助	スキ-購入費支援	50,000
	会報作成費	会報82号印刷費・発送費 400部	59,152
小屋会計		会報83号印刷費・発送費 400部	56,488
		会報84号印刷費・発送費 500部	83,550
	燃料費	豆炭、灯油、ガソリン	45,804
	交通費補助	交通費補助	60,000
	小屋整備	林道補修用品	22,466

一般会計貸借対照表

資産	負債	2023. 9. 30	
現金	3,550	次期繰越金	1,761,169
振替口座	591,264	繰越前納会費	1,171,666
通常貯金	2,725,021	前受金	387,000
定額貯金	0		
計	3,319,835	計	3,319,835

特別準備金貸借対照表

資産	負債	2023. 9. 30	
通常貯金	625,047	特別準備金	4,625,047
定額貯金	4,000,000		
計	4,625,047	計	4,625,047

<前受金内訳>

年会費	70,000
前納会費	250,000
一般寄付	1,000
小屋寄付	56,000
共通寄付	10,000
計	387,000

資産計(OB会)	2023. 9. 30
一般会計	3,319,835
小屋会計	116,763
計	3,436,598

資産計(OB会、現役共有)	2023. 9. 30
特別準備金	4,625,047

2024年度予算

2024年度一般会計予算案

(2023. 10. 1~2024. 9. 30)

(23年度実績)(24年度予算)

前期繰越金	1,789,838	1,761,169
(繰越前納会費	1,196,666	1,171,666

(収入)

費目	23年度実績	24年度予算	差額
年会費	74,000	100,000	26,000
前納会費収入	365,000	380,000	15,000
一般寄付金	32,000	30,000	-2,000
小屋寄付金	72,000	70,000	-2,000
山行参加費	39,800	30,000	-9,800
その他収入	20	0	-20
計	582,820	610,000	27,180

(支出)

費目	23年度実績	24年度予算	差額
会報作成・発行費	265,828	260,000	-5,828
小屋会計振替	150,000	150,000	0
役員会費用	16,554	40,000	23,446
総務委員会費用	24,670	50,000	25,330
山行費用	19,690	30,000	10,310
HP委員会費用	15,583	30,000	14,417
部史編纂委員会費用	15,714	25,000	9,286
その他支出(予備費)	103,450	180,000	76,550
計	611,489	765,000	153,511
当期収支	-28,669	-155,000	-126,331

(前納会費入金	340,000	360,000)
(延員員	219名	228名)
(当年度納入	34名	36名)

次期繰越金	1,761,169	1,606,169	-155,000
(繰越前納会費	1,171,666	1,151,666)

*2024年度年会費納入者は 50名、前納会費納入者を 36名としました。(2022年 38名 2023年 34名)

2024年度OB小屋会計予算案

(2023. 10. 1~2024. 9. 30)

前期繰越金	116,763
-------	---------

収入	
OB会計より振替・小屋寄付金	150,000
小屋宿泊料金	30,000
預金口座利子	0
OB小屋会計収入合計	180,000

支出	
小屋地代	10,000
交通費補助	60,000
現役小屋活動費補助	20,000
小屋整備・備品・燃料・消耗品	90,000
振込手数料	1,000
OB小屋会計支出合計	181,000

当期収支	-1,000
------	--------

次期繰越金	115,763
-------	---------

監査報告書

2023年10月29日

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部OB会

会長 西田 雅典 殿

監査役 臼須謙治 

2023年度の決算書について、会則及び諸規程並びに一般に公正妥当と認められる会計基準に則り監査を行なったところ、適正に行なわれており問題はなかった。

また、コロナの影響下、役員会及び総会をハイブリッド方式で行い、現役部員との一層の交流を図る等工夫した活動を行うことができていた。

【 2024年度 役員一覧 】

役職名	氏名	期	任期 満了年	役職名	氏名	期	任期 満了年		
会長	西田 雅典	20	'26	OB小屋委員	安藤 貞利	11	'25		
副会長	石垣 秀敏	20	'26		小口 雄平	14	'26		
幹事長	白木 政隆	21	'26		向井 良作	18	'26		
副幹事長	石川 真	41	'26		石井 重雄	19	'24		
会計幹事	(兼)	吉野 大次郎	2	'24	笹倉 実	30	'26		
		松本 和之	29	'24	安本 健一	30	'26		
顧問	嘉納 秀明	1	'24	(兼)	田中 義人	34	'24		
	吉野 大次郎	2	'24		親跡 冬樹	34	'25		
	吉村 元孝	3	'26		村山 浩樹	34	'26		
	鈴木 弥栄男	9	'24		田村 顕洋	34	'26		
	山川 隆	12	'26	(兼)	石川 真	41	'26		
総務委員長	竹村 昇	13	'25		谷口 貴大	54	'25		
総務委員	(兼)	山川 隆	12	'26		水内 裕太	63	'26	
	(兼)	西田 雅典	20	'26	編集委員長	(兼)	石垣 秀敏	20	'26
	(兼)	武藤 功二	20	'25	編集委員	(兼)	武藤 功二	20	'25
	(兼)	白木 政隆	21	'26		(兼)	楠本 なぎさ	28	'25
	(兼)	成島 和仁	22	'25	ホームページ委員長		武藤 功二	20	'25
	(兼)	吉田 豊	23	'26	ホームページ副委員長		吉田 豊	23	'26
		早川 恒二	24	'26	ホームページ委員	(兼)	嘉納 秀明	1	'24
		柏木 修一	25	'26		(兼)	竹村 昇	13	'24
		渡邊 隆史	36	'26		(兼)	石垣 秀敏	20	'26
OB山行委員長	山口 貢三	18	'26			(兼)	親跡 冬樹	34	'25
OB山行副委員長	磯尾 典男	19	'24	部史編纂委員長		堀内 章子	18	'25	
	小野 恵美子	34	'26	部史編纂委員	(兼)	嘉納 秀明	1	'24	
OB山行委員	小浜 一好	17	'24		(兼)	菅谷 光雄	6	'26	
	親跡 冬樹	34	'25			村松 清一	13	'26	
OB小屋委員長	榎本 吉夫	12	'25			山下 晓	17	'24	
OB小屋副委員長	後藤 誠史	39	'26			安武 和俊	20	'25	
OB小屋委員会計担当	(兼)	松本 和之	29	'24		(兼)	楠本 なぎさ	28	'25
OB小屋委員	諸角 壮式	5	'26			塩野 貴之	46	'26	
		菅谷 光雄	6	'26	監査役		臼須 謙治	17	'25

総員数 (除兼務)

44名

■ OB 会員近況報告

総務委員長 竹村 昇 (13期)

期	氏名	近況等
2	斎藤彦司	毎日5,000歩をめどに自宅近くの平地を散歩しています。シニアの歩こう会の参加は無理でしょう。
4	谷上俊三	今年も北海道へ行ってきました。アポイ岳は5回目です。帰り道、南蔵王の不忘山に登ってユキワリコザクラを見てきました。
4	郡司直樹	猛暑が続いている熱中症気味で何もできません。
5	向井久弥	名簿情報に変更なし。
6	岡田美奈子	この7月に火打山へ行きましたが、天狗の庭までしか登れませんでした。ハクサンコザクラがたくさん咲いていました。
6	密島英二	総会その他諸々のご手配をありがとうございます。
8	田中 稔	遠出の山行はなくなりましたが、足の衰えをカバーするため自宅廻りの散策は続けております。
8	佐木誠夫	暑さが厳しかったので、8月は体力の維持のために高度の高い八ヶ岳や富士山麓を毎週歩きました。
9	鈴木弥栄男	現役が増えて頼もしい限りです。久しぶりの常盤台キャンパスでの総会、楽しみにしています。
10	山本陽一	しばらくランニングをさぼっていました。このままではいけないと、3月の佐倉マラソン市民の部10kmにエントリーしました。これで練習再開のきっかけを作りました。2月初め、ようやく重い腰を上げ練習を始めました。久しぶりのため脚が重く、制限時間の90分を切れるのか、という不安とも鬱いました。大会当日は生憎の雨でしたが、周りのランナーの勢いを借りて何とか制限時間内に完走しました。
11	桜井謙一	PC・スマホの相談会に教える側として参加、NPO団体の活動に参加、趣味の囲碁に週1で参加など比較的忙しく過ごしています。膝、腰の調子が悪くなり「歩こう会」の参加も1回のみにとどまっています。
13	竹村 昇	実家の本棚に夏合宿の日記が見つかり、ワードで電子化している。1971年第6隊「合歓(ねむ)」隊のもので後日公開しますが、合宿中に書いたので読めない字が多く、完成までにはかなり時間が必要です。
15	安藤(廣澤)壽子	後輩の活躍をお祈りしております。
15	小泉啓治	相変わらず元気に畠仕事や孫の相手、それと山登りをしています。今夏は、岩手山・早池峰・北岳に行きました。
15	西浦(谷島)章予	週4日、まだ小学校で非常勤をしています！ 現場はいろいろな事情で先生が足りなくて……夏に最後の親(義父)が95歳で亡くなりました……また、8人目の孫が誕生しました！！ 膝が悪く、山には登れません(悲しい)が、まだまだ元気で頑張らなくてはと思っています！！！ 何かの機会に、皆様にお会いできることを楽しみにしております***アキ
17	木村善行	先日70歳となりました。幸い心身ともに元気で、今でも四季を通して年間30～40日ほど山を登っています。またリタイヤ後にトレーニングとして始めた水泳もその面白さにはまって、月に30～40kmほど泳いでいます。あと30年は人生を楽しみたいと思っています。

17	長谷川三津子	夏に山小屋を利用して頂きました。入学してから50年振りの山小屋で、思いっきり懐かしさに浸りました。毎年小屋整備をしてくださっている皆さんに感謝します。
18	向井良作	小屋委員を拝命しながら何のお役にも立てずすみません。
18	山口貢三	普段は岡山で田舎暮らし（畑、DIY、野外活動）をしています。横浜の自宅との二拠点生活を楽しもうと思っています。
18	植草慶一	OB山行以外で、久しぶりに立山に登りました。膝痛をケアしてこれからも夫婦で良い山に登りたいと思います。
19	石井 忍	67歳になりましたが、未だに週4日、小学生を相手に教壇に立っています。若いエネルギーを吸収することで、若返るかもしれませんと企んでいます。（笑）
19	笛木久栄	コロナ禍より夏は季節限定で朝に散歩をしています。今年は、燕の巣を見つけ巣立つまで毎日見に寄っていました。
19	小松眞弓	よろしくお願ひ致します。おうち時間で洋裁にはまっています。ユザワヤで切り売りしている安い布を使い、何が出来るか考えるのがとても楽しいです。盛会となりますようお祈り申し上げます。
20	西田雅典	今年もOB会を楽しんでゆきたいと思います。引き続きご協力、ご助言、役員会へのご参加のほど宜しくお願ひします。最近はOB山行、苗名小屋周辺、大山、厚木の白山、大丸山、浅間隠山など登りやすい低山を楽しんでいます。
20	石垣秀敏	今年6月に43年間続けた会社員生活を卒業し、晴れて自由人になりました。今後は「遊び」に徹し、長く遊んでいくために体力・思考力・精神力・財力などを鍛えていくつもりです。本OB会では引き続き役員を続けて、会員の皆様と共に「遊び」を追及していくうと思っていますので、今後とも宜しくお願ひ致します。
20	武藤功二	旧東海道歩きも夏の暑さには対抗できず、一時中断していましたが、11月にNPO法人が名古屋近郊の熱田一桑名間の七里の渡しを運航するため、再開予定です。
20	玉木慎二	特にありません。日々淡々と過ごしております。
20	太田信幸	名古屋在住のためなかなか横浜方面へ出かける機会が無く、今回は欠席させていただきます。皆様方には宜しくお伝えください。
21	白木政隆	昨年12月末にケガをして、残り16座の百名山踏破に向けて、月に1~2回のリハビリ山行中です。
21	鳥井正志	大分（別府）単身赴任が6年半になり、今年で千葉の自宅に引き上げる予定です。九州、四国、中国の主要な山は登ったので、来年からは東の山を（ゴルフと交互に）ボチボチ登ろうかと思っています。
25	竹内和俊	現在、松本市内の私立小中学校で美術専科の教員をやっています。
27	遠藤 幹	今年は空沼、楽古、樽前と登りましたが、大変な山にはあまり足が向きません。登りが辛く感じるようになってきました。下りは楽勝なんですが（笑）
28	大庭也寸志	23年4月より山口県へ単身赴任中（2回目）です。
30	下出直孝	裾野にいます。富士山が大きいです。
30	麻生敬介	名簿情報の登録・変更をお願いしました。
63	中山竜熙	ご無沙汰しております。夏は現役の林と剣に行って参りました。

■ YWV 現役Tシャツ販売

総務委員長 竹村 昇 (13期)

2019年に引き続いで、今年（2023年）も現役がデザインしたTシャツをOBに販売しました。寄付金を含め、1枚目6千円、2枚目5千円、3枚目以降は4千円で斡旋したところ、合計40名のOB（Tシャツ45枚）が協力してくれました。協力したOBの方々は下記の通りです。

Tシャツはモンベル製の通気性と速乾性を兼ね揃えた快適素材です。9月17日のOB総会に出席するTシャツ購入者には当日手渡し、その他の方々へはレターパックでTシャツを送りました。総会当日は横国DAY（ホームカミングデー）が開催され、その交流会に横国大広報からの依頼でYWVOB会としてTシャツを着用してミハルカスの合唱を行いました。

<https://ywvob-hp.jpn.org/members/index.php/2023/09/19/post-8001/> 参照



Tシャツ販売代金は合計263,000円で、経費を差し引いて現役には89,060円の寄付金を振り込みました。現役からは、貴重な寄付を今年急激に増えた部員のための装備充実に使いたいとのお礼のメールがきました。また、夏合宿には皆でTシャツを着用して行ったそうです。

今回の現役支援のOBの皆さんに感謝します。

<Tシャツ購入者リスト> 40名、敬称略、順不同

- 2期 塚原伸一郎、吉野大次郎（2名）
- 7期 小木曾克彦
- 9期 鈴木弥栄男
- 11期 安藤貞利
- 12期 山川 隆、榎本吉夫（2名）
- 13期 竹村 昇
- 14期 鈴木道夫
- 15期 安藤壽子
- 17期 梅野匡俊、白須謙治、小浜一好、渡邊雅子（4名）
- 18期 堀内章子、向井良作、植草慶一、植草美智子、壱井久雄、塙川朋久、渡部孝、山口幸子、山口貢三（9名）
- 19期 磯尾典男
- 20期 向井恵子、西田雅典、武藤功二、石垣秀敏、増田敬子、岡本健、作山栄一、玉木慎二、安武和俊（9名）
- 21期 白木政隆、村松俊明、長尾晴美（3名）
- 25期 柏木修一
- 28期 大庭也寸志
- 31期 伊藤明広
- 34期 親跡冬樹



■ 2023年 第4回役員会報告

幹事長 白木政隆 (21期)

2023年9月3日(日) 14:00 から、ハイブリッド(てくのかわさき+Zoom)会議にて、2023年第4回役員会が開催された。

【出席】

リアル参加

吉野(2)、鈴木(9)、山川(12)、榎本(12)、竹村(13)、白須(17)、堀内(18)、磯尾(19)、西田(20)、石垣(20)、武藤(20)、安武(20)、白木(21)、親跡(34)

オンライン参加

嘉納(1)、山口(18)、柏木(25)、松本(29)、石川(41) 計19人

【議事内容】

1. 会長挨拶

- ・リアル会議のメンバーも少しずつ増えてきている。
- ・総会前の役員会なので審議内容が多いが、活発な意見交換をして決議していきたい。
- ・9月の総会なので、いつもより少し早い打診になるが、OB新会員の加入については現在確認中である。

2. 審議事項並びに関連報告事項

①2024年度OB総会(+ワンゲル展示会)について

- ・9/17(日) 12:00より実施するOB総会・ワンゲル展示会についての段取りと役割分担、総会の流れについて詳細内容を確認する。→承認
- ・17期葛窪さんより備蓄品放出の防災食を入手したので、総会当日現役や参加者に配布する予定である。→承認
- ・総会の出欠連絡については、まだ去年より連絡が少ないため、メルマガ等で再度発信をしていく。→承認

②今期総括・来期計画、決算・予算案について

- ・今期総括については、昨年度と同様の骨子(会員数推移、総括、各委員会活動報告等)を報告する。→承認
- ・来期計画については、昨年度と同様に全般の計画や各委員会の活動計画を報告する。→承認
- ・決算は暫定で報告して第85号会報にて最終報告をする。来期予算については今期見込に基づき構築する。→承認

③役員改選、担当変更について

- ・23年の役員改選については2名退任、1名新任、再任が31名(内兼務7名)となる(詳細別紙)。→承認
- ・役員の若返り策については、今後新しい仕組みも含めて検討していく。→承認

④来期山行計画案について

- ・1/27(土)浅間嶺、5/18(土)表妙義中間道、10/19(土)甘利山・千頭星山を予定する。→承認

⑤現役活動報告について

- ・現役の写真等の受け渡しについて、現役の負荷が極力からない方法(ex.グーグルフォト)を検討する。→承認

⑥OB会報第85号の発行案について

- ・通常の内容にOB総会報告が加わるので、ページ数は通常の会報より多めになる。→承認
- ・日程として11/3(金)原稿締め切り、11/19(日)入稿、12/2(土)発行日・発送日を提案する。→承認

⑦サーバ・Webサイト(HP)検討内容について

- ・サーバの統合に伴い、メーリングリスト数を絞り込むためにメーリングリストの一部をメールに変更する。また今回の変更を機会に、メーリングリストとメールをよりわかり易い名称に変更する。→承認

- ・サイトの有料ドメインを、OB 会の組織としてよりふさわしい ywvob.org に変更することを提案する（「.com」は主に営利組織向けに使用、「.org」は主に非営利組織向けに使用）。ドメイン変更については移行期間を設ける→承認

3. 報告事項（審議事項として扱うものにはコメント記載）

<総務委員会>

- ・現役が作成した T シャツは 41 枚販売された。最終確認をしながら総会参加者には当日配布をする（不参加者は送付）。

<編集委員会>

- ・ヤマト運輸との会報の運賃交渉において、郵便料金以下の料金で決着したので、今後もヤマト運輸を継続する。

<OB 小屋委員会>

- ・現在苗名小屋では水が少ないので、小屋に行く際は飲料水を多めに持って行って欲しい。

<部史編纂委員会>

- ・未収録資料について新たな資料があれば連絡が欲しい。

<HP 委員会>

- ・未実施の方は会員ページからの OB 総会の出欠連絡と公式 LINE 登録をお願いしたい。

4. 次回役員会 1 月 7 日(日) 14:00～16:00（場所未定）の日程にて実施予定。

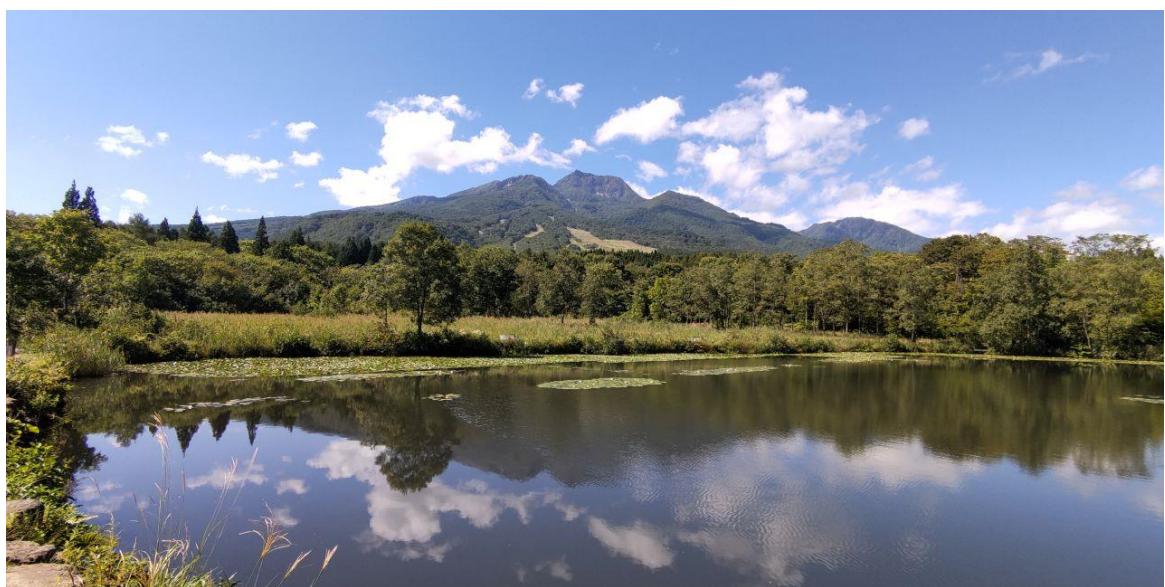
■ 苗名小屋便り P16 写真の続き



9月25日 OB と現役



11月4日 仙人池 小口さん、鈴木さん



9月24日 いもり池から望む妙高山

■ 2024 年度 OB 山行予定

OB 山行委員長 山口貢三 (18 期)

2024 年の OB 山行の予定をお知らせします。初めての方も奮ってご参加ください。偵察山行の結果等で状況によってはコース、集合時間等変更する場合もありますので、本番山行前の会報、HP、メルマガを必ずご確認ください。

第 69 回 OB 山行

1 月 27 日 (土) 浅間嶺 (せんげんれい 903m)

詳細は本会報の山行案内をご覧ください。

第 70 回 OB 山行 (予定)

5 月 18 日 (土) 表妙義中間道

JR 信越線 松井田駅 9:30 集合、タクシー乗車予定

中間道は崩落があり一部通行止めですので、山頂は踏まず妙義山の特異な山容を眺める山旅となります。

金鶴橋(10:00) ··· 大人場(10:10) ··· 分岐(10:40)[休憩 10 分] ··· 第四石門(12:10)[休憩 30 分] ··· 展望台(12:50)[休憩 10 分] ··· 中之嶽神社駐車場(13:20) ··· 石門入口(13:30)[休憩 10 分] ··· 大人場(14:15) ··· 金鶴橋(14:25)[休憩 10 分] ··· 妙義神社参道入口(15:25)



第 71 回 OB 山行 (予定)

10 月 19 日 (土)

甘利山 (あまりやま 1731m) から千頭星山 (せんとうぼしやま 2139m) まで往復します。JR 荏崎駅 9:00 集合、タクシー乗車予定。

6 月はレンゲツツジで賑わいますが、この季節は千頭星山まで静かな山歩きが楽しめるでしょう。山頂からは富士山、八ヶ岳、そして目の前の鳳凰三山の大パノラマが楽しめます。



広河原駐車場(10:00) ··· 甘利山(10:30) ··· 大西峰(12:00) ··· 千頭星山(12:30) ··· 大西峰(12:50) ··· 甘利山(14:00) ··· 広河原駐車場(14:20)



■ 第68回OB山行報告（金峰山、国師ヶ岳、北奥千丈岳）

OB山行委員長 山口貢三（18期）

【日 時】 2023年10月14日（土）天気：快晴

【行き先】 Aコース 金峰山（2599m）

Bコース 国師ヶ岳（2592m）、北奥千丈岳（2601m）

【実 動】 Aコース：大弛峠 9:57→11:27 朝日岳→13:08 金峰山 13:40→15:17 朝日岳→16:45 大弛峠

Bコース：大弛峠 10:20→11:30 国師ヶ岳→12:00 北奥千丈岳→13:20 大弛峠

9月までの真夏日が10月になるときっちりと秋に突入し登山には最適な気候になったと思いきや、週開けの天気予報が曇り時々雨、ちょうどその頃に那須の山で天候急変し低体温症による事故があったばかりということも相まって、開催できるのかとやきもきしていました。幸いにも数日前から晴予報に変わりホッとしたが、それでも標高が高く、山の気温は5度前後となるので防寒着の持参を参加者に呼びかけました。



快晴となった当日、塩山駅に8時20分集合し予約してあった4台のタクシーで出発しましたが、登山口となる大弛峠までは1時間30分かかりました。Aコースは時間がかかるので、峠から早々に出発してもらい、時間に余裕のあるBコースは遅れた車を待って出発しました。今回の登山口は標高2360mの峠なので歩き出すとすぐに展望が開けます。近くには南アルプス、八ヶ岳、浅間山、富士山、遠くに燧ヶ岳、上越国境、妙高山、白馬から鹿島槍までの北アルプスが望めました。

歴史資料館によればYWV公式山行として金峰山、国師ヶ岳は1967年にPWで登った以降、1972年の5月からは新人鍛成やし養の合宿コースとして2019年までに延べ500人以上の方々が登られています。そのため今回のコースは参加者の大半の方にとっては学生時代に登っている懐かしい山であったようですが、新鍛のコースは当時の新人にとって展望を楽しむ余裕は毛頭なかったと思います。

次回1月27日（土）の浅間尾根でまたお会いしましょう。

【参加者】

Aコース1班：6岡田、櫻井、11安藤、12榎本、14小口、吉田、34小野

Aコース2班：16中野、17川俣、白須、渡邊、18岡田、壺井、渡部、19磯尾、25柏木、34親跡

Bコース：1嘉納、10山本、13竹村、15小泉、17小浜、18植草夫妻、向井、山口、20石垣、西田

[計28名、期・名前]



■ 第69回OB山行案内（浅間嶺（せんげんれい））

OB山行委員長 山口貢三（18期）

浅間尾根は、起伏が少なくよく整備された人気のハイキングコースとなっています。かつて自動車道がなかった頃は、檜原村の中心部である本宿（払沢の滝入口があるところ）と南秋川沿いの集落をつなぐ生活道であったそうです。さらに南にある笹尾根を超えて甲州へつながっていたというから、昔の人の健脚には驚きます。こうした古道を辿る楽しみとともに、この季節は落葉し明るく開けた尾根からの展望も楽しみのひとつです。Aコースは浅間尾根登山口バス停から払沢（ほっさわ）の滝入口バス停までの浅間尾根の代表的なコースですが、歩行距離が約11kmとかなり長いため、やや短いBコースも設定しました。こちらはAコースと同じ尾根を辿り、浅間嶺から麓の上川乗に下ります。初めての方も大歓迎です。皆さんの参加をお待ちしています。

【日 時】 2024年1月27日（土）

【行 き 先】 浅間嶺（せんげんれい 903m）

【集合場所】 武蔵五日市駅 8時00分までに集合後、8時10分の都民の森行きのバス乗車

【コースA】 浅間尾根登山口バス停(09:15)・・・数馬分岐(10:15)[休憩 15分]・・・人里峰(12:00)[休憩 30分]・・・浅間広場(12:50)[休憩 10分]・・・浅間嶺(13:10)[休憩 5分]・・・時坂峠(14:45)[休憩 15分]・・・払沢ノ滝入口バス停(15:40)16:18⇒16:40 武蔵五日市駅
標高差 上り約300m 下り約630m 歩行距離 約11km 歩行時間 5時間10分 体 ★★

【コースB】 浅間尾根登山口バス停(09:15)・・・数馬分岐(10:15)[休憩 15分]・・・人里峰(12:00)[休憩 30分]・・・浅間広場(12:50)[休憩 10分]・・・浅間嶺(13:10)[休憩 5分]・・・上川乗バス停(14:30)15:08⇒15:45 武蔵五日市駅
標高差 上り約300m 下り約500m 歩行距離 約8.5km 歩行時間 4時間00分 体 ★☆

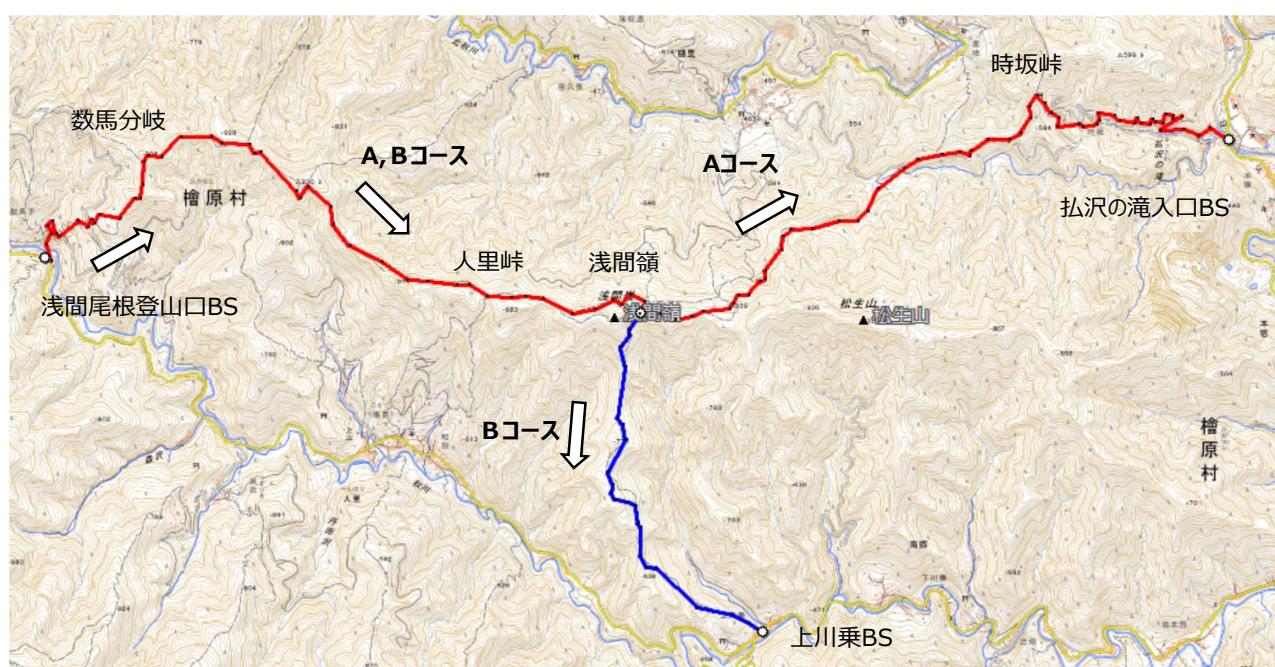
【参 加 費】 500円

【持 ち 物】 雨具、昼食等 日帰りハイキング用具

【申込方法】

1月20日までに、希望コースを山行委員会にご連絡ください。

メールアドレス : sanko-ywvob@ywvob.com



■ 苗名小屋便り

OB 小屋委員長 榎本吉夫 (12期)

コロナが5類移行されて、小屋活動も通常に戻り7月以降多数の方々の利用がありました。7月25日(火)～27日(木)、11期安藤さんとJICAのご友人の7名が小屋入りし妙高登山を楽しみました。

8月6日(日)～8日(火)に12期山川さんと榎本、山川さんの山仲間女性3人、榎本車同乗で9期鈴木さんが小屋入りしました。山川さん、友人3人と榎本は北ア 常念岳～大天井岳～燕岳縦走を天候により予定を変更して小屋入りしました。翌7日に火打山ピストンを行いましたが、下山途中雷雨に遭い、疲労困憊で19時過ぎに小屋に戻りました。その間、鈴木さんは小屋にて丸一日過ごし、前庭で水彩画を描き、また籐の椅子に座って読書し、小屋番の優雅な時を過ごしたそうです(P18自由投稿参照)。山川さん、榎本一行は8日午前中下山、鈴木さんはもう一泊しました。8日(火)、9日(水)に、14期小口さん、18期堀内さん、両日日帰りで17期葛窪(菱沼)さん、長谷川(穴山)さんが小屋入りしました。山川さん一行とはすれ違いました。鈴木さん、小口さん、堀内さんは、夢見平散策、BBQを楽しみ9日に下山しました。また9日には、現役65期林さんが富山の実家に帰省する前に立ち寄りました。妙高高原駅～笹ヶ峰間を走る頸南バスに乗車して五八木で下車、歩いてきたとのことでご苦労様。林さんが9日～10日にひとり小屋で過ごしたところ、小口さんが置いたワナに鼠が4匹捕獲でき、火葬にしたとのことでした。

お盆週間小屋整備として、11期安藤さん11日～13日(P20自由投稿参照)、29期松本さん14日～16日、12期榎本11日～16日に小屋入りしました。山の日休日の混雑を避けて、前夜発の榎本車で安藤さんと榎本が、朝4時頃小屋入りしました。8時頃まで寝て活動開始、この日2人は終日刈り払い機で草刈りを行いました。さすがに炎天下、疲れました。朝作業開始後9時過ぎに、30期宮崎さんと友人親子の3人が小屋入りしました。1泊し12日(土)下山しましたが、友人の母・息子は2人で百名山を達成したそうです。息子さんは田中陽希の大ファンだそうです。翌12日は、安藤さんの発案で棚ベッド下の工具、食料トレイ置き場の大改造を行いました。ベッドへ上がる固定式のはしごを取り外し可能とし、普段ベッドとしてはほとんど使っていませんでしたので、下の棚からの物を取り出し易くするため、必要な時に取り付けることとしました。食料トレイ(現役分も含めて)の中身チェックと入替えを上から見える立て置きを基本で行い、再配置ではトレイの二段重ねは止め、トレイを下ろさなくても蓋を外して上から覗ける形にしました。反対側にあった現役用のトレイも2個こちら側に置きました。また、調味料は高さのある物と小物に分けました。食器入れ引出の整理をして、一つを小物調味料置き場としました。かなり入れ替ましたが、テプラーの表示を付けてわかり易くしました。工具類も同様に、金属菓子箱に入っていた工具小物を、以前持ち込んだ書類ケース棚に分類して入れました。箱に入った工具類は、反対側にあるスチール棚の下段に置きました。取り出し易くなったと思います。13日は早朝、友人の慰霊登山に行く安藤さんを妙高高原駅まで送り、ガソリン補給のついでに小屋の空のガソリン携行缶2缶36Lの補給もしました。これで数年は持つと思います。14日昼に松本さんが小屋入り、15日は一階に置いてあった2台のバッテリーをトイレ前の置き場に上げ、上段はメイン6台、下段は予備4台の体制としました。午後はその配線整備を行い予備切り替えの通電確認をし、一連のバッテリー更新作業は一応完了しました。16日は早朝、松本さんは充填プロパンボンベの引き取りと金属ゴミ廃棄をするため、この日から営業の池田興産に向かいました。榎本は、ゴミ焼却やあと片づけ、掃除をし、10時前に戻った松本さんと最後の片付けと戸締まりをして小屋を後にしました。帰り際に井戸水位を計ると20センチ、ほぼ空に近いです。滞在中に2、3度雷雨等がありましたが、水位は増えなかったです。

9月20日(水)～22日(金)に64期細川さん、67期山崎さんが小屋入りしました。9月23日(土)～25日(月)に、OB20期の西田さん、石垣さん、武藤さんと友人が小屋入り、また現役組が20日(水)～25日(月)にかけて6人(OB63期水内さん、4年64期西川さん、佐藤さん、3年65期林さん、1年67期川口さん、山河さん)が小屋入りし、火打・妙高登山、恒例のBBQを楽しみました。OB組は、夢見平散策や、初めての燕温泉、黄金の湯にも行き妙高の自然を堪能しました。また、25日に小屋アクセス道路整備のための再生碎石の荷下ろしに立ち会ってもらいました。小屋の冬期入口の上部に、夏に一度駆除した蜂の巣が再発、蜂の駆除(100匹くらい)を現役がやってくれました。

10月8日(日)～9日(月)に安藤さん、小口さんが小屋入りし、公式行事のキノコ狩りを2名で行いました。小屋の周りは今シーズン地元小口さんも驚く、ジコボウが採れ放題、きのこ汁&BBQを堪能しました。今後のキノコ狩りが期待できそうです！

11月3日(金)～5日(日)に小屋閉め前半(今期は現役の事情で、次週の後半と2回分けて行う予定)を実施しました。OB組は、鈴木さん、小口さん、榎本の3人、現役は4年前田さん、西川さん、佐藤さん、2年副末さん、望月さん、笠井さん、齋藤さん、難波さん、1年川口さん、五條さんの10人が小屋に入りました。4日午前中、榎本と現役2年生2人が灯油の空ボリ6本(108L)と豆炭の冬期材購入に向かい、現役は小屋内の清掃、期限切れ食材の処分、9月に購入した碎石の小屋へのアクセス道路への散石(半分は雪解け時、散石用に残しました)などを行いました。また、鈴木さん、小口さんは車の小屋前までの侵入で緩んだトレーニングの強度補修を行いました。午後、OB3人は仙人池まで散策に行きましたが、池の水位が小口さんも見たことがないほど減っていました、今年の渇水状況がわかりました。夜はOB3人組と現役10人組で、時間をずらしましたが、ともに恒例のBBQを楽しみ、現役は小屋内で深夜まで歓談しました。翌5日、現役OBとも午前中に小屋を後にしました。

今シーズンは小屋の林道入口、道路反対側の植林帯がきれいに全て伐採され、見通しがよくなり妙高外輪山、妙高山本峰がすっきり望めるようになっています。今後植林されると思いますが、しばらくはこの眺望が見られるでしょう。

一昨年から現役の小屋利用が増加し、最近は常に2桁人数の小屋入りがあり、嬉しい限りです。また、今冬期の雪下ろしも昨年同様に現役主体で実施の予定です。今後の現役小屋利用が常態化し、現役主体の小屋行事が増えることを期待しています。



11月5日 小屋締め前半参加者 10名



11月4日 晩秋の小屋



11月4日 渇水の仙人池



小屋入口の林道の反対側の伐採地

[写真は P12 に続く]

2024年(令和6年) 山小屋予定

- | | | |
|-----|-----------|--------------------------------------|
| 1月 | 第1回雪下ろし | 13(土)～15(月) |
| 2月 | 第2回雪下ろし | 10(土)～12(月) |
| 3月 | 第3回雪下ろし | 16(土)～17(日) |
| 5月 | 小屋開け | 4/28(日)～6(月) 2～3泊参加者都合に合わせる |
| 6月 | 山菜採り | 1(土)～2(日) or 5/25(土)～26(日) 山菜状況に合わせる |
| 7月 | 第1回小屋整備 | 13(土)～15(月) 草刈り、螢狩り |
| 8月 | 第2回小屋整備 | 10(土)～15(木) (お盆週間) 参加者都合に合わせる |
| 9月 | (第3回小屋整備) | 14(土)～16(月) 整備必要時! |
| 10月 | キノコ採り | 5(土)～6(日) |
| 11月 | 小屋閉め | 2(土)～4(月) 学祭と重なる時は次週 |

*“小屋整備”とありますが、整備だけではありません! 例年、散策と登山も実施しています。

小屋メールアドレス: koya-mail@yvob.com

■ 自由投稿①「北海道・東北花紀行」

谷上俊三（4期）

今年の花紀行は、サクラソウの総集編として北海道のアポイ岳と東北の不忘山へ行つきました。アポイ岳ではエゾオオサクラソウとサマニユキワリ、南蔵王の不忘山ではユキワリコザクラがちょうど満開で、きれいな花を写真に収めることができて、今回の目的が達成できました。アポイ岳で、もうひとつのサクラソウ、ヒダカイワザクラは残念ながら咲き終わっていたようで、今回は見ることが出来ませんでした。

今年は群馬県の鳴神山で固有種のサクラソウのカッコソウを見て、今回不忘山でユキワリコザクラに初めて出会い、サクラソウの総集編ができました。あとユウバリコザクラ、ソラチコザクラ、トチナインソウに出会ってみたいのですが希少種であったり、場所的にかなり難しかったりするようなのでここでサクラソウを追いかけるのは一段落しようと思います。

詳細にご興味がある方は私のホームページでご覧ください。

<HTTP://shunn.xyz>



■ 自由投稿②「ワンゲル5期の会開催」

羽島継男（5期）

毎年5月頃開催していたワンゲル5期の会が、コロナ禍が晴れて3年ぶりに再開しました。2023年10月19、20日、厚木市郊外の広沢寺温泉玉翠楼で家族併せて12名が参加、楽しいひと時を過ごしました。不思議なもので同期生が集まればすっかり昔の若者に変身。大きな声でしゃべるやら笑うやら。にぎやかな一夜でした。翌日も快適な秋空に恵まれて近くの森林公園を散策。その後本厚木のさるレストランで昼食、来年10月の再会を約束して家路につきました。

■ 自由投稿③「2023年8月 苗名小屋」

8月6～9日 なえな小屋ライフ

鈴木弥栄男（9期）

台風5号が沖縄をUターンして再び襲ったあと進路を変え、九州西側を北上するなか、その影響を心配して、12期山川さん率いる「ゆる山プロジェクト」メンバー女性3人と12期榎本さんが、8月6日から[常念岳～大天井岳～燕岳]縦走の当初計画を変更して、小屋に来ることになった。一方、このお盆期間に小屋で避暑の長居をしたく「伝助」に登録したら、榎本さんが8月6日朝に井荻駅で鈴木を拾ってくれることになり、一方、山川車が横浜を出て上里SAで両者が連絡とれ、横川SAで合流し、高速道を下り

て、第一スーパーで食材を買出し、大盛で安価な中華店で昼食を摂った後、13時過ぎは小屋に到着、夕餉は恒例のBBQを楽しんだ。

登山組5人は、8月7日朝4時半起き、5時半には小屋を出て、笹ヶ峰駐車場に山川車を置いて、火打山・妙高山登山口→黒沢橋→十二曲り→富士見平→高谷池ヒュッテ→天狗の庭→ライチョウ平→火打山(2462m)→下山ルートで、19時過ぎに小屋に戻った。下山途中に雷雨に遭ったそうで、下山時、延々と続く木道には、みなさんは筋肉痛と蛇に刺されて大分参ったようだ。

この間、鈴木は小屋にて丸一日過ごし、前庭で3時間ほど水彩画を描き、また籐の椅子に座ってスティーブン・ピンカー『心の仕組み』下巻を読み、小屋番をして優雅なひと時を過ごした。室内温度は22°C、湿度は80%であり、下界の37、38°Cとは比較にならない快適なものだった。ただ、8月8日、前夜に料理したカレールーが一杯入っていた鍋の蓋の上で子鼠が鼻を付けて舐め舐めしているのを目撃してしまった。

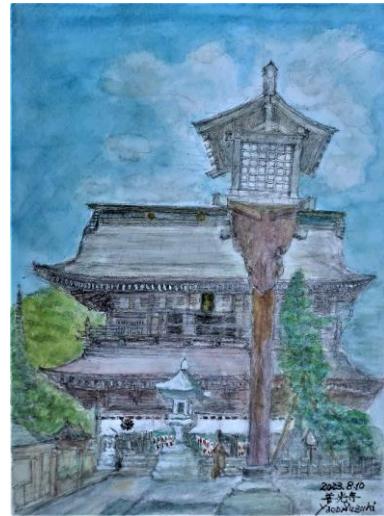
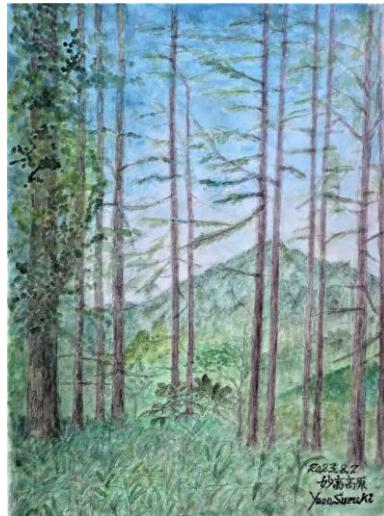
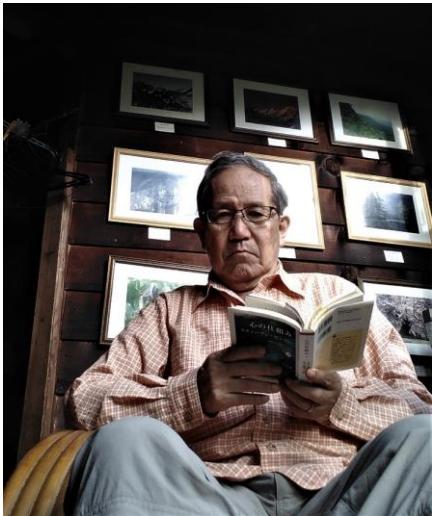
8月8日、長野在住の14期小口さんが自車を提供してくれ、長野駅10時に18期堀内さんと17期長谷川さん(旧姓穴山)をピックアップ。助手席の堀内さんに連絡を鈴木がとり、トイレの殺虫剤、鼠忌避剤、鼠取りを道中に購入してと要請、コメリに立ち寄り購入してくれ、更に黒姫高原沿いに住む17期葛窪さん(旧姓菱沼)をピックアップして12時頃に小屋へ到着。昼食後、夢見平に行こうとの誘いに小口さんとワンゲルOG3人が乗り、出掛けた。小屋へ戻って、恒例のBBQを楽しんだ。鈴木は今日も留守番、水彩画の彩色と読書の続きで優雅に過ごした。

8月9日、4人はヒコサの滝に出かける。結局、笹ヶ峰登山になったようだ。鈴木は今日も留守番、水彩画の彩色と読書の続きで優雅に過ごした。なお、留守中に小屋の外で人声が聞こえるではないか。65期林泰志君が重いザックを背負って立っていたのだ。聞くと富山の実家に帰省する前に立ち寄ったとのこと、妙高高原駅～笹ヶ峰間を走る頸南バスに乗車して五八木で下車、2kmほど歩いてきたとのことであった。

蕎麦で昼食後、鈴木を含めて4人が小口車に乗り、「なえなの湯」に向かうも水曜日は定休日であることが分かり、葛窪さん宅に立ち寄り、女性2人がシャワーを浴びてすっきりしたようだ。鈴木は長野駅前のホテルを事前に予約していたので、駅まで送ってもらい、翌日は善光寺を参拝した。8時半過ぎにホテルを出たので、まだ人出は少なく、仁王門→山門→本堂と歩いたが、本堂の前庭には盆踊りの櫓が建てられ、提灯が多く吊られて画題としては小生手に負えないと諦め、代わりに山門を描くことにした。でも人通りが多くなり、おまけに太陽が燐々と照りつけ始めたので1時間で切り上げ、長野駅に向かった。

後日談として、現役の林君が9日～10日にひとり小屋で過ごしたところ、鼠が4匹捕獲でき、火葬にしたとのこと。





8月10~13日 小屋生活

安藤貞利 (11期)

8月10日~13日、12期の榎本さんの車で10日夜出発して、須坂で高速を降りて西友須坂で買い出しをしてから、小屋に入る。高速の途中で休憩したので着いたのは、午前4時ぐらい。11日は7時に起き出して、畑にゴボウの種を蒔いていると、30期の宮崎さんが友人家族2人と共に小屋にやってきた。予期せぬことでしばらく話をして、彼らは笹ヶ峰から苗名の滝へ散策に出た。我々は、草刈り機を動かして、草刈りを始めて、午前中1時間半、午後2時間ぐらいの作業をした。昼食は西友で仕入れた生ラーメンにシナチク、チャーシューを入れた豪華なもの。小屋の周りから駐車場までの道を草刈り。夕方5時ぐらいに宮崎さん一行が帰ってきて、バーベキュー・パーティ。中学生の友人息子君は焚火で花火を始めて、たいそう興奮し楽しそうだった。宮崎さんが同行した彼ら家族は、浜松から車で来ており、息子君が5歳時から百名山登山を家族2人で始めて、小学校卒業までに完登したこと。宮崎さんはそのインタビューをするためにやって来た。すごいタフな家族。

12日は、朝食を5人で食べた後、宮崎グループは出発。ゴボウ畑は東側の一段高いところに作ったが、それまで生えていた草の根が10cm近くあって掘起こしたので一段低い畑になった。土が火山性の酸性地質なので、中和すべく石灰を混ぜ込んだ。ゴボウは何年か前に植えたことがあったが、収穫は1本だけだったと聞いているので、小屋締めの時少しでもできるか期待。

今日もまた草刈をやろうと思っていたが、ネズミ捕りに4匹もかかったので、ネズミ対策ですべての食料、調味料をコンテナの中に入れることにした。まず、小瓶の調味料は、食器用コンテナにいれ、大瓶は大型食料コンテナに入れることにした。しかし、コンテナからの食料取り出しが、二段に積んだコンテナからは一回ごとにコンテナを床に置かなければならず、これまで不便さを感じてきた。そこで、二段の棚に平置きでコンテナを置けるように、三段目に登る階段を外して電気ドリル、カッター類を北側に移して、現役のコンテナも含めて5つを棚に平置きにした。これでコンテナを床に置かなくても取り出せるようになる。また、コンテナの中に仕切りをつけて、食料の種類ごとに置けるようにした。これで今まで感じてきた何がコンテナに入っているか開けてみなければわからないという不便さは、管理の仕方でなくなるのではないかと期待している。夕方に苗名の湯に行ったところ、駐車場は18時から盆踊りという事で提灯が飾られて、焼き鳥コーナーの準備をしていた。夕飯は鮭のチャンチャン焼(鮭をアルミに包んで野菜と一緒に味噌ミリンで味付け)、焼きそば。

13日は榎本さんに妙高高原駅に朝一番に送ってもらい、長野駅からバスで志賀高原へ行った。

■ 自由投稿④「百名山思い出ベストテン」

渡邊雅子（17期）

「百座目です」と言うと「おめでとうございます」と皆さんのが声をかけてくださいました。何がめでたいのだと？　決まった挨拶みたいな感じ？　でも嬉しかった！　これから私が選んだ「百名山思い出ベストテン」を発表します。

①富士山

創立5年目だったK高校1年生の時、夏の自由参加の学校行事で登った富士山。今考えるとリスクの大きい行事、よく職員会議で通ったなと思います。私は体力に自信がなかったので、同じく自信のないOちゃんと一緒に励まし合って参加しました。登山行事の中心と思われるF先生が先頭、次がOちゃん、私の順でした。8合目の山小屋に泊まり、翌朝2時に起き、頂上へ、ご来光を拝むことができました。その光景がよかったですからか、大学でワンダーフォーゲル部に入ったのかもしれません。

また、母とキャラバンシューズとウインドブレーカーを買いに行ったことも良い思い出です。私は5人兄弟姉妹の末っ子で家が貧乏だと思い込まされていました。お祭りに行って屋台の食べ物をねだると「ため水で調理しているので、お腹を壊すからダメ」といつも言われ、「うちは貧乏だから買ってもらえないのだなあ」と思っていました。そんな母が喜んで買い物に行ったのが印象に残っています。きっと母も登山してみたかったのかもと思います。後に、母は私の山友達と私の山道具を背負い、尾瀬に行きました。

昨年、もう一度富士山に登りました。ガイドさんの話だと、私が高校の時登った道は、今は通れないそうです。吉田口から登り、お鉢巡りをして宝永山、プリンスロードを下りました。

②白馬岳

ワンゲルに入って、本当にいい山だなと思ったのが、この白馬岳です。新鍊や合宿で行った丹沢・奥秩父などは山道が茶色で暗い感じでした。しかし、白馬岳は、森林限界を超えると、見晴らしも良く、白い尾根道には高山植物が咲いていて、はじめて山は良いな、楽しいなと思いました。

昨年、白馬大池から蓮華温泉へ降りるコースへ行きました。露天の温泉が良かったのですが、白い道とお花畑はイメージしていたものと違っていました。やはり、ワンゲルで行った杓子岳、白馬岳、雪倉岳の縦走コースが良かったなあと思いました。昔の思い出が美化されているのかもしれません。

③平ヶ岳

この山は夏の合宿で各隊が別々の場所から出発して、集結した山です。なんだか最終的に皆に会えて楽しかったことを覚えています。また、頂上からは360度、緑の山しか見えない、海も盆地も集落も見えず、本当に山々の中の真ん中にいる気がして、感激しました。

この平ヶ岳は、自然保護のため、山小屋や避難小屋がなく、幕営も原則禁止されているので、一般的な登山道のコースタイムは往復で約12時間！　日本百名山の中で「日帰り登山の最難関」との呼び声も高く、大学の時に行っておいてよかったです。

④燧ヶ岳

11月に行われた女子ワンでした。尾瀬ヶ原の木道の表面は霜が降り白くなっています、草原は一面が薄いベージュ色で霜？がついて、その一粒一粒が、朝の日差しでキラキラ・カラカラ音が聞こえるように輝いていました。周りの山の木の赤紫の葉がすべて地面に落ち、暗い紫の幹が見えていました。空は青く雲が白く浮かんでいると合わせると、白・薄いベージュ・赤紫・暗い紫・空色と絶妙な色合いが本当に素晴らしい感動して、歩いていて嬉しくなってしまいました。尾瀬は春も夏も冬も行ったことがあります、小屋が閉まってテントでしか入れなかった11月の尾瀬の色が私は一番好きです。

⑤トムラウシ山

大学卒業後、高校からの友達Tちゃんと層雲峠からトムラウシ山へテントを背負って縦走しました。（写真(1)～(3)) 途中ナキウサギに出会ったこと、遭難した親子を探すヘリが上空を飛んでいる中、お花畠の尾根道を気持ちよく歩いたことを覚えています。食事をインスタントでできるお豆腐や野菜等栄養バ

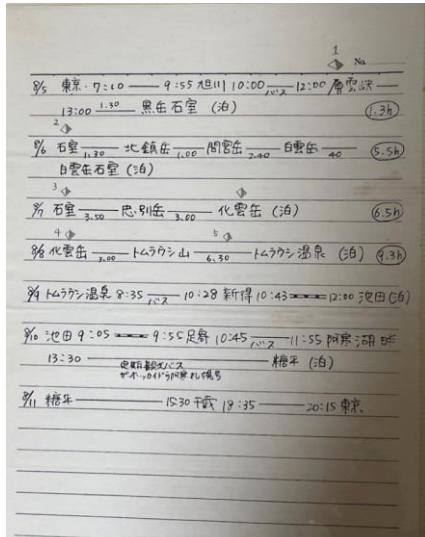
ランスの良い献立（写真(4)）を考えていきました。昔は偉かったです。あんなに重いテントと食料、シュラフ、調理器具一式を背負えたのですから、若いって素晴らしいですね。その後、Tちゃんとは百名山は15座一緒に登りました。



(1) トムラウシ山 Tちゃんと



(2) トムラウシ山 山頂



(3) トムラウシ山 目程

朝	晩	既
	カレー、サラダ	
	ラザニア 3袋	
9/5 (B)	トマト 2kg キウイ 2kg	
	小豆、豆乳 1kg	
	長 2合	
お茶漬け	パン、スープ	55g寿司、味噌汁
味噌汁 3袋	ローリング 6袋	55g寿司、ごはん
6 (B)	カーフォード 3袋	味噌汁 3袋
トマト 1kg	チーズ 3kg, キウイ 2kg	トマト 3kg 2合
野菜パック 1袋	フレッシュ 3袋	野菜パック 1袋
ラーメン	パン、紅茶	朝 3升
ラーメン 3kg	ラーメン 1kg	朝 3升 3袋
バーフィン 10kg	乾燥パック 1袋	味噌汁 3袋
三ツの味噌 1kg	ローリング 6袋	米 2合、味噌汁 3袋
① 1kg	ヨーグルト 3kg	ハウストマト 1箱
ごはん	パン、紅茶	
冷やご	パン、ヨーグルト 1kg	
8 (B)	紅茶パック 1袋	
味噌汁 3袋	ローリング 3袋	
味噌汁 3袋	チーズ 3kg	
		アサ 1袋、2.5kg 1箱
		せんべい 1袋、カレーパン 1箱
		ラーメン 1袋

(4) トムラウシ山 献立

⑥大山（弥山）

退職記念に旅行券が出たので、夫と出雲大社・足立美術館・きたろーラード。そして、最後に大山を登る計画を立てました。夫は山男ではありません。大山は幼稚園生も登っていました。途中振り向くと、びっしょり濡れたチェック柄のシャツの夫がにっこりしていました。えっ！綿のシャツ？

登山といえばチェック柄のシャツ、天皇陛下も登山の時はお召しになっていました。でも、素材はポリエステルでしょう。私が汗冷えしないように、水戸黄門で由美かおるが忍びの姿の時着るような黒の綱のミレーの下着を着ていることや、イタリアやイスス製の高額な高機能ウエアを着ていることを夫は知らないのだなと思います。「綿のシャツでも山は登れるのだ」と私は言いたいです。よい退職記念旅行になりました。

⑦ 劍岳

百名山を目指していなかったら登っていなかった山です。岩稜はあまり好きではありませんが練習をして臨みました。当日は台風一過の晴天で素晴らしい景色でした。岩の殿堂という名がふさわしい山でした。登頂できて良かったです。

⑧吾妻山

8月初め頃、息子と登りました。息子は若いし男子だし、背も高いし、勝手にどんどん登っていきます。「待ってー」あっという間に見えなくなってしまい、私は焦って急いだ時、前にのめって石段の角に脛をぶつけてしまいました。少し切れたところにキズパワーパットを貼り、やり過ごし無事頂上に着き下山。しかし、その怪我の対処が悪く、治療のため、9月10月は山に行くことができなくなりました。

治った後に登った山は新鮮な感じがしました。健康で山を歩けるのは幸せなことだと身に染みて感じることができるようにになったのはこの山のお陰です

⑨幌尻岳

この山も百名山を目指してなかったら登らなかった山で、また、登って良かったと思った山です。21回渡渉を繰り返し麓の小屋へ行きます。個人では行けそうにないので、ツアーに参加することにしました。マイ旅・クラツー・アルパインツアーサービス等各社ツアーが出ていました。

持ち物が一番少ないマイ旅を選びました。それ以外の会社はシュラフ・ヘルメット・ハーネス・ストックが必須アイテムだったのです。個人では行きにくい北海道や東北、九州の山はツアーを利用しました。ツアー40座、ワンゲル・OB山行25座、Tちゃんと15座、個人家族等20座が百名山の内訳です。

⑩塩見岳

2年前に光岳を100座目として百名山踏破したと言いましたら、「安達太良山、天気が悪くて途中で引き返したよ」とか、「塩見岳登ってないのでは?」という声をいただきました。ということで、昨年、安達太良山、今年塩見岳に行きました。100座目にふさわしく、計画は自分で立てました。小屋の予約やコースタイムの案も考え、登山計画書も提出しました。18期の山口さん、岡田さんと行きました。岡田さんは岡田会と称する山行を計画していくつも誘って頂いています。頂上では、お二人に「ハッピバースディ to ユー」の替え歌、「おめでとう百名山」を歌っていただきました。生の歌声プレゼント付きの100座目踏破は感無量でした。

■ 自由投稿⑤「陣ヶ下渓谷歩き」

長尾晴美 (21期)

「～横浜市で唯一の渓谷～」 そんなうたい文句に誘われて陣ヶ下に足を踏み入れたのは、まだ猛暑前の6月のことでした。18期の堀内さんと連れだって、今をときめく相鉄線西谷駅から、帷子川沿いに歩き出しました。梅雨の晴れ間、静かな住宅街、川面は穏やかに光っていました。

神社の脇を通過すると、ほどなく「陣ヶ下渓谷公園」の案内板が見えてきました。環状2号線が頭上に通るほの暗い道からは、まるで神殿のような白く太い橋脚が何本か伸びています。それらを回り込みながら、少しずつ下っていくと、車の音に変わって水の音が聞こえはじめ、空気はひんやりとしてきました。

突然、道を切り取るかのように、水の流れが現れました。澄んだ水が、平らな川底の岩を滑っていました。

「おー、まさに渓谷！」

水量によっては、靴を濡らさずには渡れない川幅があり、木立に囲まれた景観にはちょっとばかり驚きました。

渓谷の堪能は後の楽しみにしようと、濡れないように川を渡り、その先に続く陣ヶ下公園を一回りしてみました。ひっそりと咲くかわいい花たちや、地面に埋められた謎めいた看板などと出会いながら、「みずのさかみち」と呼ばれる石段を上ったところで、ついでに公園の近くにある評判のラーメン店に入ってみたりしました。

再び渓谷に戻ってきた後は、待ってましたとばかりにウォーターシューズなどに履き替え、水の中へ。小一時間ほど水の中や岩の上をシャバシャバと歩き回り、おしゃべりしながら水の感覚を楽しみました。

散歩に来た2匹の犬が、飼い主を振り切って大喜びで水の上を走り回っている姿には、こちらまではしゃいだ気分になりました。

しかし、川の水は思ったより冷たく、帰宅後は足が「ダルオモ」状態になってしまいました。この歳で水遊びは考えものだったのかもしれません、まさかの市内での「涼」に、心はすっきりの一日となりました。



「そっとしておいてください」と書かれた蓋。のぞきたい！



■ 自由投稿⑥「日本一低い中央分水界（氷上回廊）を訪ねる」

柏木修一（25期）

1 はじめに

だいぶ以前に森村誠一の本をよく読んだ時期があって、「分水嶺」というタイトルの本があった。その冒頭は、大学の卒業記念に冬穂高の稜線のナイフエッジを縦走中、信州側に滑落した友人を助けるため、エッジを挟んだ飛騨側に自ら身を投げ出し、1本のザイルにつながれて、エッジを振り分けに支えられた二人は、九死に一生を得るという壮絶なシーンから始まる。時を経て二人の人生は、全く違った方向に進んでいく…。

分水嶺は、稜線上に降った雨の一粒が異なる源流に分かれる場所で、山の中の分水界に当たる。本稿では、最近訪れた「山の中」、「谷の中」、「川の中」それぞれの場所にある分水界を紹介する。

2 山の中の分水界

2023年10月、OB山行で久しぶりに登った大弛峠～金峰山(2599m)の尾根は、北面が千曲川(新潟県に入ると信濃川)の源流で日本海に、南面が笛吹川の源流で富士川に合流して太

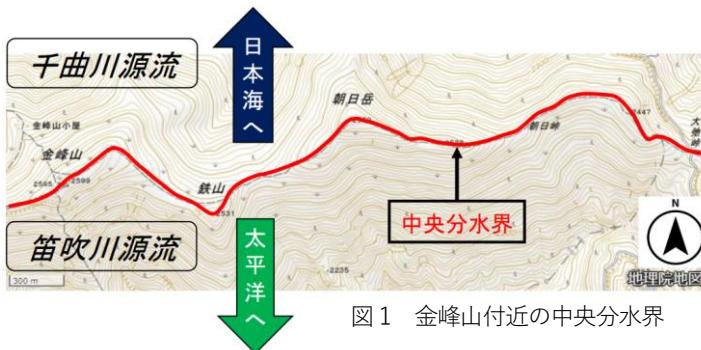


図1 金峰山付近の中央分水界



図2 中央分水界全図

太平洋に、それぞれ注ぐ（図1）。本邦では、太平洋と日本海への水を分ける場所を中央分水界（中央分水嶺）と言い、中央分水界には谷川岳、八ヶ岳連峰などが連なり、最高地点は乗鞍岳（3026m）に達するが、西日本では知名度が比較的低い山々も連なる（図2）。富士山（3776m）は、山体に浸透した雨水の全てが太平洋に流下するので、中央分水界には当たらない。中央分水界について興味のある読者は、例えば、以下（※1）を参照されたい。

世界に目を向けると、オーストラリア大陸の中央分水界に当たる大陸東縁を南北に走る山脈が The Great Dividing Range、大分水嶺山脈と和訳され、まさに中央分水界がそのまま地名になっている。

※1 「日本の主要な分水界マップ」 <https://japonyol.net/watershed.html>

「中央分水嶺踏査 | 公益社団法人日本山岳会」 <https://jac1.or.jp/bunsuirei>



3 谷の中の分水界

ここからが本題で、山の中にある分水界（図3）を知る方は多いが、谷の中にある分水界を知っている方は少ないと思われる。谷の中にある分水界は、谷中分水界（こくちゅう ぶんすいかい※2）と呼ばれ、両側を山に挟まれた平らな谷底が分水界になっている（図4）。谷中であっても、わずかな高まりがあれば、そこが水を分ける場所になり得る。中央分水界には、何か所か谷中分水界があることが知られており、こうした場所は中央谷中分水界と呼ばれる。

2023年9月、新聞記事で読んだことのある日本一低い分水界を出張ついでに訪ねたところ、想像以上の面白さを味わえた。

その場所は氷上回廊（ひかみかいろう）と呼ばれる低地帯で、中央谷中分水界のうちでも、日本一標高が低い場所（標高95m）として知られている（図5、図6）。ここは兵庫県丹波市石生（いそう）に位置して、JR福知山線の石生駅から、徒歩15分くらいで行ける。街中には、日本一低い分水界を解説した案内標識が数多く設置されている。分水界の北側に降った雨水は、黒井川という由良川源流となり日本海へ注ぐ一方、南側に降った雨水は、高谷川という加古川源流となり瀬戸内海つまりは太平洋へと注ぐ。ちょうど谷間から流れ出た一本の川が、「日本海へ流れる川」と「瀬戸内海へ流れる川」に二分される「運命の分かれ道」とも言うべき地点を見てきた（図7）。どちらの方向へ流れても、海まで70kmというのも面白い。

近くの公園は、水が分かれる場所に因んで水分れ（みわかれ）公園と名付けられている。公園に隣接する水分れフィールドミュージアム（※3）の展示物の解説が、氷上回廊の特色や谷中分水界の成り立ちについて大変分かりやすく、興味深かった。3万年前の氷河期に大陸と陸続きになった時期に日本列島へ渡ってきたナウマンゾウは、氷上回廊を通って瀬戸内海へ抜けていったというし、古来より人や物の交流

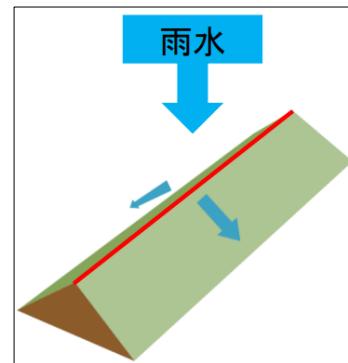


図3 山の中の分水界

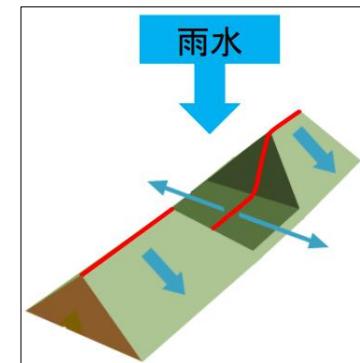


図4 谷の中の分水界

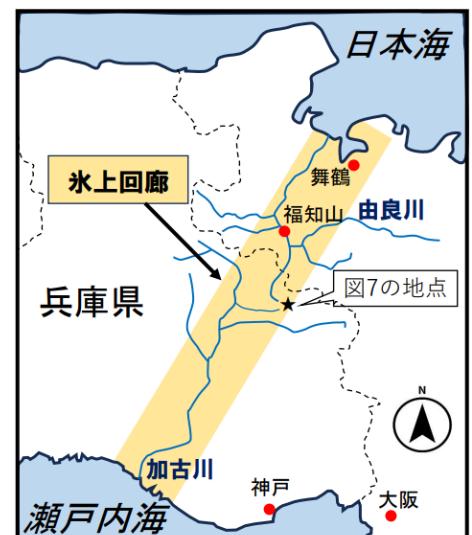


図5 氷上回廊の位置



図6 中央谷中分水界付近の地形図

ルートにもなっている。さらに、生物にも影響を与え、北方系のブナや南方系のヤマモモなどが回廊を越えて移動したという。そんな不思議な場所であることを味わいつつ、図7の水が分かれる地点から日本一低い分水界に沿って最低地点まで、約1.3キロの緩い坂道を下った。

※2 「4. 河川の作用による地形 | 国土地理院」

https://www.gsi.go.jp/kikaku/tenkei_kasen.html



※3 「氷上回廊」

<https://www.tamba-hikamikairo.com/>



4 川の中の分水界

さらに福知山線に乗り、南方に向かって5駅目の篠山口駅近郊を訪れた。地理院地図では、川に流水方向を示す矢印「→」が付けられるが、田松川には、なんと相反する流水方向を示す矢印が付けられている（図8）。この川の流れは、どうなっているのか知りたくて、現地に行ってみると、納得！なんと川の中に人工的な堰つまり分水界があった（図9）。堰の両側では水位差があり、北へ向かう流れは篠山川から加古川へと繋がり、加古川市で瀬戸内海に注ぐ一方、南へ向かう流れは武庫川へと繋がり尼崎市で、やはり瀬戸内海に注ぐ。この分水界は、日本海と太平洋に流れる水を分けてはいないので、上記の中央谷中分水界には当たらない。想像するに、図8付近は、ほとんど平らで傾斜がなく、もともと沼沢地で水はけが悪かったため、圃場整備の折にでも水路と堰を作って排水を2方向に分けたのだろう。帰宅後にWeb検索すると、世の中には私と同じようなマニアが居て、この場所について詳しく書いた記事が見つかった（※4）。

※4 <http://96champ.blog.jp/archives/6967054.html>

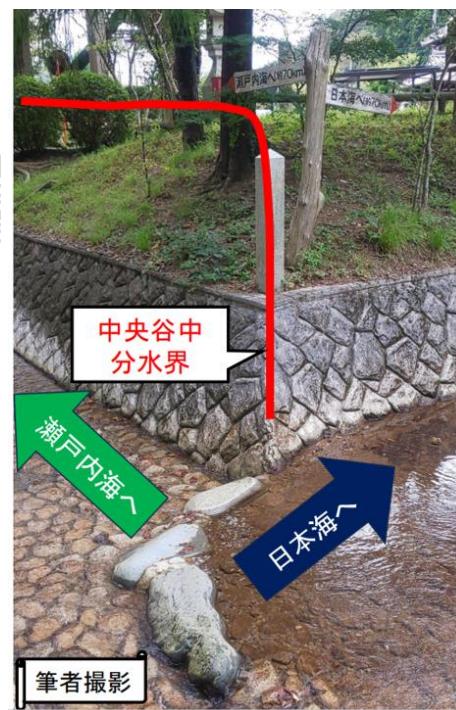


図7 日本海と瀬戸内海（太平洋）への水が分かれる地点



図8 田松川にある奇妙な記号



図9 田松川の中の分水界（人工の堰）

■ 自由投稿⑦「秋田 皆瀬川水系虎毛沢 遊行記」

佐々健太郎 (37期)

東京都から秋田県に移住して10年、その間、秋田県を中心に、残雪期の山や、沢を少しづつ登ってきました。今回、同期の柳田さんと県南の虎毛沢を遊行しましたので、ご報告いたします。また、今後、毎年夏休みに、秋田県やその他東北の沢へ泊まりで出かけられればと思っています。ご興味のある方は是非、お声がけください！（連絡先：sf@sf-pat.jp）。

◇第1日目 小安大湯～虎毛沢分岐

虎毛沢は皆瀬川の源流部に位置し、首都圏でも人気の沢で、亀甲模様を持つ美しいナメ床で有名です。日程は、2023年7月29日～31日の2泊3日で行きました。

登山は、小安温泉峡の最も奥にある大湯温泉近くにある林道入口からスタートしました（①）。林道入口には鎖が張られ、車は入れず、ここに車を止めて歩き出しました。林道はすぐに終わり、徒歩道になりました。この徒歩道は、昔の森林軌道を利用した道です。秋田県には森林軌道跡を利用した徒歩道が多くみられ、こんなところまでと驚かされることがあります。丹沢でも無人と化した世附川沿いの地蔵平で不思議な感情を味わったことがあります、そこにもかつて森林軌道が走っていたと聞いたことがあります。

閑話休題。途中4人の方とすれ違い、この徒歩道には、かなり人が入っていることがわかりました。そのうちの一人はボランティアで敷払いをしているとのことで、こういう方のお影で徒歩道が保たれていると思い感謝です。道は概ね問題ありませんが、森林軌道の鉄橋を渡る部分があり、欄干もない橋なので、やや注意が必要です（②）。1日目は徒歩道と別れる虎毛沢分岐をテント場としました（③）。



①林道入口から少し入った場所
(さあ出発！)



②森林軌道の鉄橋



③1日目のテント場

◇第2日目

3:30に起床し5:40に出発しました。ここからは沢の遊行になります。赤湯又沢までは、途中、淵を小さく巻く箇所もありましたが、特に、問題ありません（④はこの区間で撮影）。ただし、アップがかなりうるさかったです。赤湯又沢は一大支流で、滝をかけて虎毛沢と合流しています（⑤）。合流前に、虎毛沢にも滝がかかっています。合流後も滝があります。虎毛沢の第一の滝は簡単に登れます。その後の滝を、左から巻くか、虎毛沢第一の滝の落ち口をトラバースして赤湯又沢側から巻くか迷いましたが、柳田さんがうまくルートを見つけてくれ、赤湯又沢側からルートをとりました。赤湯又沢は途中に温泉が湧いているこ

とで有名な沢で、温泉に泊まりつつ赤湯又沢を降りてきて、虎毛沢を登る周回がメジャーな沢登りコースになっていきます。

赤湯又沢から先はナメ床、きれいな釜が多数出てきます

(⑥はこの区間で撮影)。魚もチョロチヨロしだします。釜は微妙なへつりもあって、ライフジャケットをもってきたのは安心感があり正解でした。滝もありますが、巻道がついています。途中、岩魚も1匹釣れて(虎毛沢の岩魚は結構すれていって、私に釣ってくれたのはこの1匹だけでした)、14時頃715m付近のテント場に到着しました。最後の詰めは危険個所もありそうなので、こここの支沢から1016mの稜線を目指す予定です。柳田さん持参のつまみと、岩魚の刺身、ワインで楽しい夜でした。



④虎毛沢分岐～
赤湯又沢分岐の間で撮影



⑤赤湯又沢分岐



⑥赤湯又沢分岐～715mの間で撮影

◇第3日目

本日は長いので、3:00に起床し日の出とともに4:39に出発しました。支沢は始めこそ伏流していますが、すぐに水が出てきて、危険個所もなく、藪も濃くなく、いい道でした。

登山道には6:25に出ました。ただし稜線上の登山道は、事前の情報通り刈払いされていません、ところどころ藪化しており、途中のピークである上クワ沢森の展望もありませんでした。私の学生時代(1990年代)は、林道が延び、登山道も次々拓かれていく時代でしたが、今は、林道も荒れ、登山道も藪化し、いい面悪い面ありますが、とにかく自然が戻ってきています。特に秋田県はそうなのかもしれません。

さて、ようやく、秋の宮温泉からくる赤倉沢からの登山道に合流したのは8:00ころでした。分岐に荷物をデポし、虎毛山を往復しました(⑦)。頂上先は湿原になっており、気持ちの良いところでした。分岐に10:25に戻り、あとは一直線に虎毛山登山口に向けて下山しました。この下りが結構きつく、登るとすれば大変そうです。



⑦虎毛山山頂

◇感想

虎毛沢は、久しぶりの泊まりの沢として、危険も少なく、良いところでした。最後の登山道の藪こぎがなければもっと良いのですが。柳田さん、一緒に行っていただきありがとうございました！

◇太平山地と7月の水害について

当初は、県南の虎毛沢ではなく、太平山地の大蓋沢中流部に行く予定でした。しかし、直前の大雨の影響で、急遽、行先を変更しました。太平山地は、秋田市民にとって、神奈川県民にとっての丹沢のような山域で、知名度は低いですが、山菜、きのこ、岩魚が豊富な素晴らしい山域です。大雨のあとに山へ登った人の報告によると、登山口の広い駐車場がなくなっていたとの報告もあり、非常に心配しています。秋にも様子を探ろうと思っていますが、沢が、倒木や砂・石で埋め尽くされていないことを祈るばかりです。また、今回の水害では秋田市の中心部も広く浸水し、被害を受けた方が多くいらっしゃいます。こちらも復興を祈るばかりです。

■ 観天望 (編集委員会から)

編集委員長 石垣秀敏 (20期)

12月に発行するOB会報は、OB総会報告やOB会員近況報告などを掲載するため、いつもよりもページ数が多いのですが、本号は更に自由投稿を7稿もいただきましたので、32ページという厚い、熱いOB会報になりました。ご投稿をいただきましたOB会員の皆様や原稿を作成いただいた役員の皆様に厚く御礼申し上げます。編集委員会が掲げた今年度のテーマである「会報が本会と会員の架け橋に！」に近づいたかな、と勝手に都合の良い解釈をしています。

さて、今回は編集委員の職業病(?)について少し述べたいと思います。コトバを見るとつい悩んでしまいます。OB会報を発行する際、原稿の校正を行っていますが、原文を尊重しますので修正するのは明らかな間違いだけにしています。しかし、何が「明らかな間違い」かを判断するのが困ります、そして、悩みます。例えば、こんなことがありました。

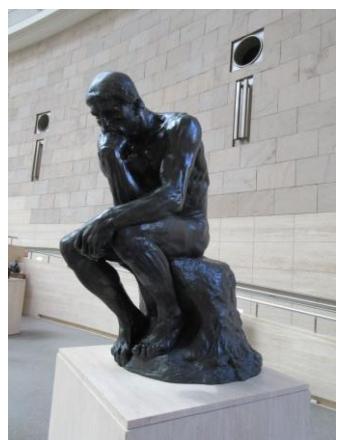
本号のP13にあるOB山行予定で「千頭星山」があります。この読み方が「せんとうぼしやま」か「せんずぼしやま」かで悩みました。インターネットで検索すると「せんとう・・」と書いてあるページが圧倒的に多く見つかりました。「よし、これだ！」と思った後に、この名前の由来のページが見つかり「山名の起りからいと本来は「センズボシ」と読むのが正しいと推定される。千頭（せんず）とは、サル、シカ、イノシシなどの多獣地を意味する・・・」などと書かれています。「えー、どちらにしよう」山を熟知する方にとっては簡単に答を出せることも、筆者にとっては結論までが長い道のりです。そう言えば、有名な白馬岳も同じようなことがあったなあと思いました。

白馬岳の名は信州側山麓地帯で苗代時に馬の形をした残雪模様、いわゆる雪形が見えることに由来している。本来は代馬と書くべきだが、白馬の美しいイメージが好まれ、この当て字が定着したそうだ。従い、シロウマと読むのが正しいのだが、村名・駅名なども公式にハクバとなったために山名もハクバ岳と読むようになったようだ。

などと、こんなことまで思っていると、数時間があっという間に過ぎてしましました。この「千頭星山」の読みだけでこんなに時間を使って悩むなど、もう明らかな病気です。もし、筆者がボーッしているのを見かけたら、また何かのコトバで立ち往生していると思って、そっとしておいてください。

実は、前号の「みはるかす」の話の続きを本号に書く予定でしたが、この「職業病」のため、次号以降に先送りしてしまいました。でも、病気なので責めないでくださいね。お願いします。

本年多くの方々のお力で、無事OB会報を3号発行することができました。本当にありがとうございました。皆様にとって来年も良き年でありますようお祈り申し上げます。



静岡県立美術館にて
2018年3月 筆者撮影

■ 現役部員の活動紹介

主将 塩坂昂太郎 (65期)

お世話になっております。現役を代表して今期主将の塩坂が夏合宿以降の活動を報告させていただきます。今年度は部員が増えたこともあり、たくさんの山行を計画しました。

- 7月 凰凰三山、赤岳
- 8月 北岳、雲ノ平×2、パノラマ&表銀座、白馬×2、水平歩道
- 9月 パノラマ&表銀座、北岳&間ノ岳、火打&妙高、小屋活
- 10月 谷川岳馬蹄形、中央アルプス、赤城山、男体山、毛無山&十二ヶ岳
- 11月 小屋活動、小屋閉め、北横岳&蓼科山

台風が直撃したこともあり、裏銀座など中止になった計画も幾つかありました。個人的にはトムラウシが中止になってしまったのが残念です。それでも、夏合宿だけで10コース以上の山行がありとても賑わいました。

写真が小さくてわかりにくいかと思いますが、今年は夏休み前にワンゲルオリジナルTシャツを用意しました。このTシャツは部員自らデザインしたロゴを胸にあしらったものをモンベルにプリントしてもらったものです。このおかげで、夏合宿は部活らしい一体感のある写真が多かったです。OBOGの皆様におかれましても、たくさん買っていただきありがとうございました。



また、水平歩道ではケガ人が出てしまいました。幸い、軽傷で済みましたが、上級生の負傷ということで改めて登山が危険であるということを周知することとなりました。水平歩道に参加した部員が部室にある友垣ノートにて、当時の状況を事細かく記録してくれたおかげで、とても良い教訓となりました。改めて安全なルート選定、歩き方、装備などを見直し、救急セットの備品を増やすなどの対策を取っていく所存です。



撮影・写真提供 宇野洸一郎氏

ところで、今年はいい写真がたくさん撮れました。上の写真はパノラマ・表銀座でのものです。たまたまプロのフォトグラファーに会い、いくつか写真を撮ってもらいました。今年はカメラ趣味の部員も多く、たくさんの素晴らしい写真がLINEグループで共有されました。個人的にはあまり公式山行に参加できなかったので、写真だけでも見ることができてうれしかったです。

最後になりますが、今期も多くのご支援をしてくださいありがとうございました。Tシャツ購入の際に支援してもらった資金などは共通装備や消耗品、安全対策に利用させていただきます。冬期も小屋スキーはもちろん低山や軽アイゼンで十分な山を中心に活動をしていく予定です。今後ともよろしくお願ひいたします。

■ 退会

総務委員長 竹村 昇 (13期)

- ・上島雄助氏（8期）が2023年9月30日に退会されました。



2023年9月
山中湖から日の出直前の富士山
撮影 楠本なぎさ氏(28)

皆様からの投稿をお待ちしています。自由投稿の原稿、写真、スケッチ等を編集委員会にお送り下さい。メールアドレス kaiho-ywvob@ywvob.com

編集にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

YWVOB 会 会報第 85 号

発 行 行 : 横浜国立大学ワンダーフォーゲル部 OB 会
発 行 日 : 2023 年 12 月 2 日
発 行 責 任 者 : 会 長 西田 雅典(20)
編 集 責 任 者 : 編 集 委 員 長 石垣 秀敏(20)
編 集 集 : 編 集 委 員 武藤 功二(20)
編 集 委 員 楠本なぎさ(28)
顧 問 吉野大次郎(2)
印 刷 所 : 株式会社プリントパック 京都府向日市森本町野田 3-1